

# 土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 地方港湾 大竹港（小方地区）再編計画に係る調査業務委託

事業・工事名

調査目的及び調査対象 港湾 構造物基礎

ボーリング名	No.15		調査位置	広島県大竹市小方一丁目地先		北緯	34° 14' 05.2868"		
発注機関	広島県西部建設事務所廿日市支所				調査期間	令和5年11月11日～令和5年11月14日			
調査業者名			主任技師			現場代理人			
コ	ア		ボ		ロ		リ		
孔口標高	TP	角	180°	方	北 0°	地盤勾配	使用		
-10.40m		上	90°	270°	西	鉛直	試験機		
		下	0°	180°	東	90°	東邦地下工機D1-B		
総削孔長	25.00m	度	0°	向	南	機	エンジン		
						種	ヤンマーディゼルNFD-10		
							ポン	東邦地下工機BG-3C	

標尺	標高	深	現場土質名	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位/測定月日	標準貫入試験					試料採取		室内試験	削孔月日	
											深度	100mm毎の打撃回数	50回の貫入量	自沈時の貫入量	深度	試料採取番号				
1				砂混り粘土	暗灰				非常に軟らかい粘土である。 GL-1.00m付近までヘッド状である。 含水は非常に多い。 均質であり、粘性は強い。 貝殻片を多く混入する。 GL-4.00m付近、少量の細礫5~10mm(垂角礫)を混入する。 砂は細砂から中砂主体で、礫はφ2~5mm程度のものが多く混入する。		0	1.00	0	0	500	1.00	P-1	土粒子密度、自然含水比、粒度 液性限界、塑性限界		
2												1.50				1.50				
3												3.00	0	0	500	2.78	T-1	土粒子密度、自然含水比、粒度 液性限界、塑性限界		
4												3.50				3.50	P-2	土粒子密度、自然含水比、粒度 液性限界、塑性限界		
5	-15.10	4.70		礫混り粘土質砂	暗灰				細粒分(粘土分)も多く混入する。 貝殻片も多く混入する。			5.00	0	0	500	4.80	T-2	土粒子密度、自然含水比、粒度 液性限界、塑性限界		
6	-16.40	6.00		シルト混り砂礫	暗緑灰							5.50				5.50	P-3	土粒子密度、自然含水比、粒度 液性限界、塑性限界		
7	-17.40	7.00		シルト混り砂礫	暗灰				砂は粗砂が主体である。 礫は2~5mm程度が多く混入する。 垂角~角礫主体である。含水が多い。			6.15	2	1	4	6.15	P-4	土粒子密度、自然含水比、粒度		
8	-18.20	7.80		砂質粘土	黄褐灰				砂は粗砂が主体である。 礫は2~5mm程度が多く混入する。 垂角~角礫主体である。			7.15	9	8	7	24	7.15	P-5	土粒子密度、自然含水比、粒度	
9	-19.20	8.80		礫質砂	暗褐灰				砂は細砂~中砂である。 貫入試験が棒状に採取される程度の硬質である。			8.15	2	2	6	8.15	P-6	土粒子密度、自然含水比、粒度 液性限界、塑性限界		
10	-20.10	9.70			黄茶褐	rd3			砂は粗砂が主体である。部分的に花崗岩片を混入する。 礫は2~5mm程度が混入する。			9.15	4	5	7	16	9.15	P-7	土粒子密度、自然含水比、粒度	
11					暗灰				砂は中砂~粗砂が主体である。			10.15	24	22	4	50	10.15	P-8	土粒子密度、自然含水比、粒度	
12				砂礫					礫は2~30mmの角礫が多く混入し、最大は50mm程度である。 GL-10.00m付近まで色調は褐灰~暗灰色を呈する。 GL-11.00m以深は黄褐灰色に変化する。			11.15	15	15	20	50	11.15	P-9	土粒子密度、自然含水比、粒度	
13					黄褐灰							12.15	25	15	10	50	12.15	P-10	土粒子密度、自然含水比、粒度	
14												13.15	20	23	7	50	13.15	P-11	土粒子密度、自然含水比、粒度	
15	-25.20	14.80		礫混り砂	淡灰	rd4			砂は微細砂~中砂で、細砂が主体である。 粘土が優勢な部分を薄く挟む。			14.15	11	20	19	50	14.15	P-12	土粒子密度、自然含水比、粒度	
16	-26.90	16.50			黄茶灰				垂角礫~角礫主体で、大きさは10~30mm程度で最大は50mm程度である。			15.15	4	10	24	15.15	P-13	土粒子密度、自然含水比、粒度 液性限界、塑性限界		
17				粘土混り砂礫	黄褐灰				砂は細砂が主体である。			16.15	15	15	20	50	16.15	P-14	土粒子密度、自然含水比、粒度 液性限界、塑性限界	
18	-28.70	18.30			褐灰							17.15	25	25	50	180	17.15	P-15	土粒子密度、自然含水比、粒度	
19	-29.30	18.90		礫混り粘土質砂	黄褐灰				10~20mm程度の角礫を混入する。			18.15	28	3	3	34	18.15	P-16	土粒子密度、自然含水比、粒度 液性限界、塑性限界	
20									礫は10~30mm程度の垂角礫~角礫である。 砂は細砂が主体である。 GL-20.00m付近は色調が黄褐灰色が主体であるが、褐灰~茶灰色が部分的にモザイク状に分布する。 GL-21.00m付近はやや細粒分の含有が多い。 花崗岩の組織を少量混入する。 砂は細砂が主体である。			19.15	13	13	14	40	19.15	P-17	土粒子密度、自然含水比、粒度	
21				砂礫	黄褐灰							20.15	16	24	10	50	20.15	P-18	土粒子密度、自然含水比、粒度	
22												21.15	19	31	50	180	21.15	P-19	土粒子密度、自然含水比、粒度 液性限界、塑性限界	
23	-33.40	23.00										22.15	50		50	100	22.15	P-20	土粒子密度、自然含水比、粒度	
24				風化花崗岩	淡黄灰				やや風化している。 GL-24.00m以深、ほぼ新鮮となる。 コアは棒状に採取される。			23.15	35	15	50	160	23.15	P-21		
25	-35.40	25.00			黄褐灰							24.10	30	20	50	200	24.10	P-22		

